

平成 28 年度(公社)砂防学会定時総会並びに研究発表会「富山大会」

定時総会並びに研究発表会「富山大会」実行委員会

平成 28 年度(公社)砂防学会定時総会並びに研究発表会を、下記の要領で開催いたしますのでお知らせします。参加申し込み手続き等の詳細につきましては、「砂防学会誌」第 68 巻 5 号（平成 28 年 1 月 15 日発行予定）に掲載の予定です。多数のご参加と研究発表をお願いいたします。

なお「砂防学会研究発表会」は、CPD（技術者継続教育）の履修実績として申請することができます（CPD に関するお問い合わせ先：砂防学会事務局 TEL：03-3222-0747）。

I. 平成 28 年度(公社)砂防学会定時総会並びに研究発表会「富山大会」実施要領

1. 期 日 平成 28 年 5 月 18 日(水)～20 日(金)
2. 会 場 富山県民会館
(〒930-0006 富山県富山市新総曲輪 4 番 18 号 TEL：076-432-3111)
3. 日 程 下記日程表のとおり（※予定であり今後変更することがあります）

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	18:30	20:30
5 月 18 日(水)		受付	総会，特別講演，企画セッション，口頭発表セッション								休憩	意見交換会	
			ポスターセッション・企業展示・行政展示										
5 月 19 日(木)		口頭発表セッション	昼食	コアタイム	口頭発表セッション								
		ポスターセッション・企業展示・行政展示											
5 月 20 日(金)	現地研修会（2 コースから選択）												

4. 特別講演および企画セッション

特別講演と企画セッションは一般公開とします。詳細は企画中ですが、企画セッションは、「立山・黒部の自然、文化と砂防」(仮題)というテーマで行う予定です。

5. 現地研修会、参加費および参加申し込み等

現在計画中で、「砂防学会誌」第 68 巻 5 号でご案内いたします。

6. 問い合わせ先

平成 28 年度(公社)砂防学会定時総会並びに研究発表会「富山大会」実行委員会事務局
〒930-8501 富山市新総曲輪 1-7
富山県土木部砂防課内（担当 尾定、奥田、山本）
TEL：076-444-3342（直通）
FAX：076-444-4420

II. 平成 28 年度砂防学会研究発表会要領

1. 発表セッション

発表方法は、口頭発表とポスター発表です。会場の関係で口頭発表を希望されていても、ポスター発表に変更をお願いする場合があります。口頭発表セッションでは、一般セッションとテーマ別セッションを設けます。テーマ別セッションのテーマは下記の 3 テーマです。また、一般セッションに「Sediment dynamics and disaster in changing environment」に関する英語セッションを設けます。英語セッションでの発表、質疑応答は英語で行います。

テーマ別セッション

(1) 歴史的砂防施設や一般の砂防関係施設の維持管理
常願寺川では、白岩砂防堰堤（重要文化財）や本宮堰堤・泥谷砂防堰堤群（登録有形文化財（建造物））といった昭和初期に設置された歴史的砂防施設が補修や補強を重ねながら現在まで機能を保持してきている。この地域の河川の勾配は急で流量が多く、上流域も荒廃しているため、天端の摩耗・損傷をはじめとする砂防関係施設の維持管理上の問題は絶えず発生する。水抜き暗渠、袖勾配、前庭保護など構造的な工夫や施設配置や施工方法の

検討が行われてきているが、これらの検討は今後も新しい知見を取り入れつつ継続する必要がある。

本セッションでは、我が国の歴史的砂防施設や一般の砂防関係施設に対して、維持管理上の課題に対応してきた経過を踏まえつつ、現時点における施設の劣化、損傷状況の評価方法や点検手法の開発、補修や補強工法の技術開発についての課題を整理し、今後の方向性について議論する。

(2) 都市型土砂災害の特徴と対応

平成 26 年 8 月 20 日に広島県広島市で発生した土石流災害では、死者が 70 名を超える甚大な被害が生じた。広島市では平成 11 年にも同様の災害が発生しており、都市型土砂災害による被害の軽減のため、これまでの取り組みについて改善点や課題を分析し研究開発を進める必要がある。本セッションでは、砂防学会の「広島市の大規模土砂災害に関する砂防学会緊急調査に基づく提言」を踏まえつつ、都市周辺の山麓部での宅地のあり方や土砂災害防止対策ならびに減災のために必要なハード・ソフト対策について、事例を整理するとともに、課題や今後の方向性について議論する。

(3) 砂防分野における数値解析法の問題点と解決への試み

砂防分野で対象とする物理現象は、土石流の流動現象のように非常に非線形性が強い力学現象が多い。強非線形性を有する力学現象の特徴を理解するには、物理量の時空間的な変化を再現できる数値解析を用いるのが有効な方法の一つである。しかし、砂防分野で取り扱う物理現象は、現在の最先端の数値解析技術を駆使しても再現できない現象が多く存在する。また、急速かつ広く、数値解析が砂防分野で利用されてきたため、各解析法の問題点や適用範囲について十分な知見が得られていない状態での利用が危惧されている。本セッションでは、砂防学会研究会の成果発表を兼ねて、現在の砂防分野で利用されている数値解析法が有している問題点について検討するとともに、再現が難しいとされている物理現象を再現するための解決法について議論する。

2. 発表者の資格

発表者は、発表申込時点および研究発表時点において砂防学会の個人の正会員か学生会員に限り（グループでの発表の場合は、発表者が会員であることが必要です）。なお、発表者とは、口頭発表の場合は実際に会場において口頭で発表するもの（1 名）を指し、ポスター発表では、コアタイムに実際に説明する者（代表者 1 名）

を指します。原則として、発表者としての件数は口頭発表もしくはポスター発表のどちらか一件とします（なお発表者以外の共著者の場合はこの限りではありません）。またテーマ別セッションについては、重複制限から除外するものとします。

3. 発表内容

土石流、山崩れ、表面侵食、地すべり、地震や噴火に起因した土砂流出等の土砂災害およびそれらの防止工事、斜面緑化、森林水文、森林が土砂流出に与える影響、土砂災害減災と生態系保全、砂防の社会的評価に関するもので、原則として学会等に未発表のものに限りします。

4. 発表方法

口頭発表は、パソコン接続のプロジェクターのみで行います。発表者は USB メモリーにファイルを格納して持参して下さい。OHP およびスライドの使用はできません。発表者の方には、パソコンの OS およびソフトのバージョンに関する詳細について、改めて連絡いたします。

5. 発表申し込み

本大会の発表申し込みは、平成 27 年度栃木大会と同様に、すべて原稿投稿システムによるオンラインで受け付けます。電子メールやはがきによる申し込みは受け付けませんので、ご注意下さい。発表申し込みの締め切りは、平成 28 年 2 月 12 日（金）とさせていただきます。申し込み方法の詳細は、「砂防学会誌」第 68 巻 5 号（平成 28 年 1 月 15 日発行予定）に掲載の予定です。

6. 概要集掲載原稿の投稿

概要集掲載原稿の投稿もすべて原稿投稿システムによるオンラインで受け付けます。下記の下記の原稿作成要領に従って原稿を作成し、PDF 形式（2 MB 以下）に変換して投稿して下さい。ポスターセッションによる発表についても概要集掲載が必要です。

提出期限は、平成 28 年 4 月 1 日（金）（厳守）です。提出期限以降は受け付けられませんので、期限厳守をお願いいたします。なお、投稿を行っても参加申し込みにはなりません。参加申し込みは別途行なって下さい。

7. 研究発表要領に関する問い合わせ先

〒506-1422 高山市奥飛騨温泉郷中尾 436-13
京都大学防災研究所 穂高砂防観測所
堤 大三
TEL：0578-89-2154
E-mail：tsutsumi.daizo.8 m@kyoto-u.ac.jp

Ⅲ. 砂防学会研究発表会概要集掲載原稿作成要領

本大会では昨年度の栃木大会と同様に、完成原稿は PDF 入稿とします。ミスマスク防止のために、PDF ファイルの原稿をそのまま縮写（約 95%）し、印刷の上、概要集を作成しますので、以下の諸点に留意の上、

鮮明な原稿の提出をお願いします。

1. 原稿書体

原稿は原則として MS ワード等のワープロソフトで作成して下さい。

2. 原稿用紙および文字のサイズ

用紙サイズはA4とし、上15 mm、下25 mm、左20 mm、右10 mmを確保して下さい。

1行の文字数および1ページの行数は自由とします。ただし、文字のサイズは10ポイント以上とします。

3. 原稿枚数

2枚とします。1枚あるいは3枚以上は受け付けません。

4. 題名および氏名

題名は第1行目の中央に書き、1行あけて所属、発表者名（連名の場合は発表者の先頭に○印を付ける）を右側に寄せて書いて下さい。題名は本文よりやや大きめに書いて下さい。

1行あけて本文を書き始めて下さい。

5. 使用する文字

使用する文字や仮名遣いは、原則として「常用漢字表」「現代仮名遣い」に従って書いて下さい。

6. 改行

改行した場合の次の行は、必ず1字あけて書き始めて下さい。

7. 文字の割付

句読点、(), :, 引用記号および1桁アラビア数字には1マスをあて、アルファベットおよび2桁以上のアラビア数字には2字で1マスをあてて下さい。

8. 見出し番号

本文の章、節等には次の記号を使用して下さい。

章 1, 2, 3

節 1.1, 1.2, 1.3

節以下 1.1.1, 1.1.2, 1.1.3

9. 参考文献

内容に関係のある参考文献を最後にあげて下さい。

10. 図表

図表はすべてクリアにし、原則として本文の間の所定の位置に挿入して下さい。図表等の左右に余白ができたときは、その部分にも本文を記入して下さい。

11. 写真

写真を使用する場合は、白黒印刷にも耐える鮮明なものとして下さい。また、図表と同様、本文の間の所定の位置に挿入して下さい。

12. 原稿のPDF化と取り扱い

完成した原稿は、PDF化ソフト（例えばAdobe社Acrobat等）を用いてPDFファイル（2MB以下）にして下さい。原稿にはページ番号を入れないで下さい。なお、PDF化された原稿からそのまま概要集を作成しますので、不鮮明なものについては再提出をお願いすることがあります。ご了承下さい。

13. 原稿作成要領に関する問い合わせ

〒506-1422 高山市奥飛騨温泉郷中尾436-13

京都大学防災研究所 穂高砂防観測所

堤 大三

TEL: 0578-89-2154

E-mail: tsutsumi.daizo.8 m@kyoto-u.ac.jp